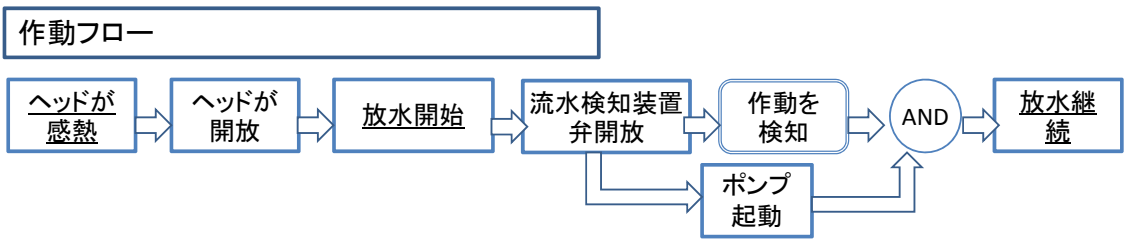
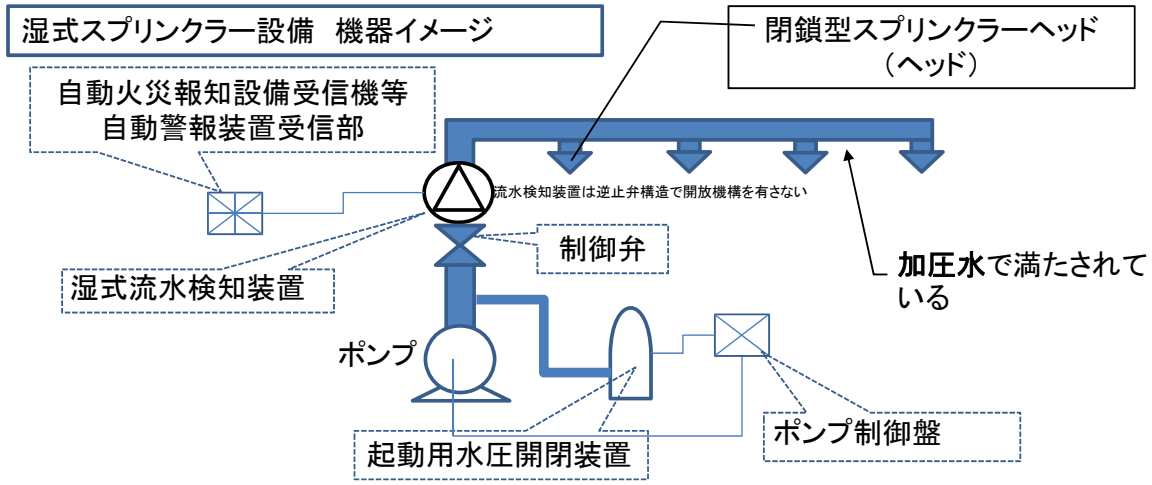


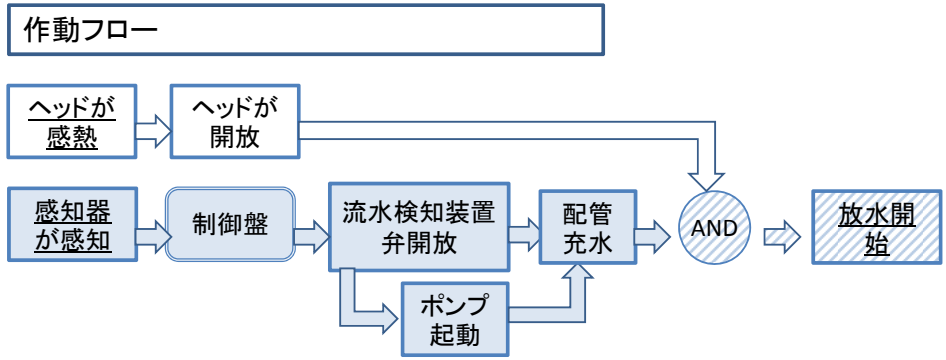
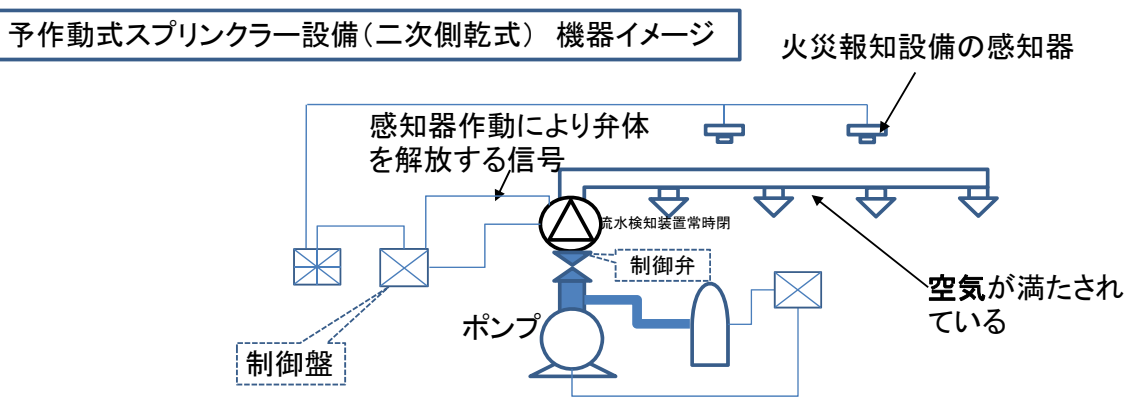
○湿式スプリンクラー設備

一次側と二次側がほぼ同圧力で、ヘッド開放直後にクラッパーが押し上げられて流水現象が起こる。配管は、ポンプからヘッドまで水が満たされており、ヘッドの感熱開放に伴い、配管内の水が放水され、その放水を流水検知装置で検知して弁を開放し、ポンプを起動する。ヘッドの感熱開放と同時に放水可能である。



○予作動式スプリンクラー設備 (二次側乾式)

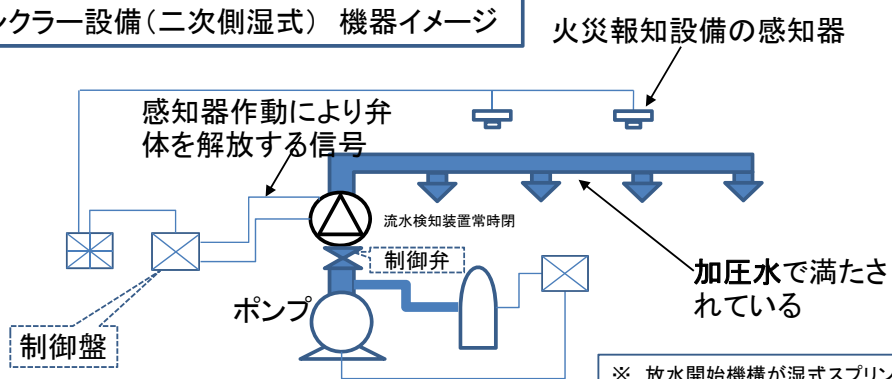
一般的には感知器作動で弁体が開放する。弁体開放に、放水そのものに関係する機器以外 (感知器の電気信号等) が関わることが湿式、乾式と大きく異なる。ポンプ起動後に二次側に充水するため、湿式より放水開始が遅れる。



○予作動式スプリンクラー設備（二次側湿式）

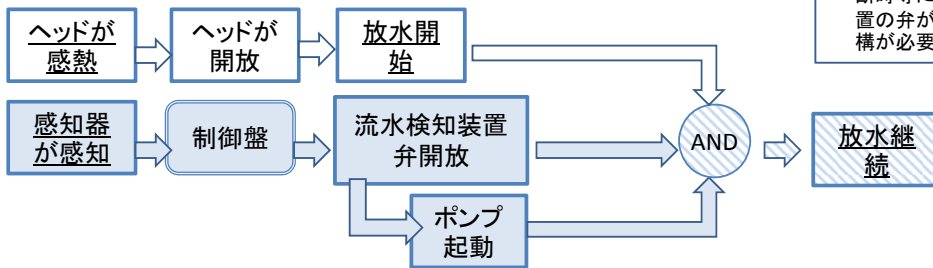
一般的には感知器作動で弁体が開放する。弁体開放に、放水そのものに係る機器以外（感知器の電気信号等）が関わることが湿式、乾式と大きく異なる。二次側に予め充水する。※法令上は二次側乾式と同じ扱い。

予作動式スプリンクラー設備（二次側湿式） 機器イメージ



※ 放水開始機構が湿式スプリンクラー設備と、他の部分の機構は予作動式スプリンクラー設備（二次側乾式）と同等。
 ※※ 感知器故障等や火災報知設備の電源遮断時等には、感知器によらずに流水検知装置の弁が開放されるようなフェイルセーフ機構が必要

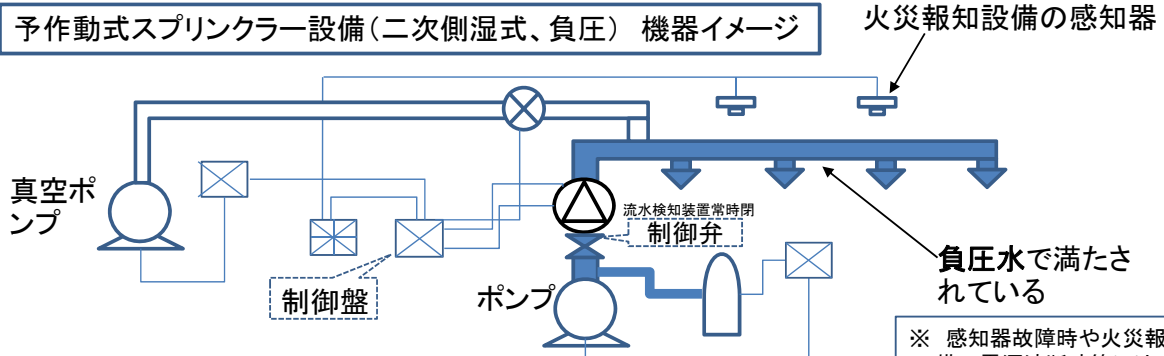
作動フロー



○予作動式スプリンクラー設備（二次側湿式、負圧）

一般的には感知器作動で弁体が開放する。弁体開放に、放水そのものに係る機器以外（感知器の電気信号等）が関わることが湿式、乾式と大きく異なる。二次側に予め充水するが、負圧になるよう制御を行う。※法令上は二次側乾式と同じ扱い。

予作動式スプリンクラー設備（二次側湿式、負圧） 機器イメージ



※ 感知器故障時や火災報知設備の電源遮断時等には、感知器によらずに弁が開放される機構や、真空側の弁閉止等の不良に備えた遠隔操作といったフェイルセーフ機構が必要
 ※※ 配管継手やヘッド等について、負圧に対応できる基準が必要（技術的に未解決）

作動フロー

